

韮崎市第8次総合計画策定に係る
第3回市民ワークショップ 開催報告書

令和8年9月
韮崎市財務政策課

1 市民ワークショップ（以下、WS）の概要

目的

- 韮崎市の最上位計画となる「韮崎市第8次総合計画」の策定に向けて、計画満了年の2034 年(令和 16 年)の未来像について市民の皆さんの意見を集める場として開催しました。
- 本市の生活環境や各種施策に対する意見・課題や新たなアイデア・提案など、市民目線からの生の声を集め、関係部署へのフィードバックや「官民ワークショップ」に反映しながら計画策定につなげることを目的としています。



開催日程

開催日	テーマ	開催場所	参加人数
令和7年12月 23日(火) 19:00～21:00	第1回 韮崎市の理想の未来づくりワークショップ(市民対象) ・今の韮崎市のすきなところ、困り事 ・理想の未来実現に向けたキーワード ・10年後の理想の韮崎市は「～なまち」 ベスト3	ニコリ 3 階 多目的ホール	21 人
令和8年 5 月 26 日(火) 19:00～21:00	第2回 理想の未来を実現するプロジェクトを具現化しよう(市民・市職員対象) ・第 1 回の振り返り(課題、将来像)の紹介 ・第 1 回の内容を踏まえて、重点テーマを提示し、各テーマに分かれて取組を検討して、重要なプロジェクトを提案	ニコリ 3 階 多目的ホール	17人
今回のワークショップ			
令和8年 8 月 25 日(火) 19:00～21:15	第3回 プロジェクトの実現に向けたプロセスを考えよう(市民・市職員対象) ・実現性のある重点プロジェクトを考えよう！ ・プロジェクトごとの推進体制、役割分担、プロセスについて考えよう！	ニコリ 3 階 多目的ホール	14 人

参加者

市民ワークショップの参加者は、以下のメンバーによって構成されました。

- 公募市民
- 総合計画審議会 委員
- 市職員



当日の流れ

第2回振り返り・計画の検討状況説明

①プロジェクトの提案

②ワールドカフェ・とりまとめ

全体発表・講評

- 第1回・第2回WSの振り返りについて、事務局から説明



- 総合計画の全体像の検討状況について情報共有

3.ワーク

総合計画の全体像(検討案)



- 公民連携で進める重点プロジェクトについて、第2回WS検討結果をもとに、「何を?」「何のために?」するか意見を出し合った。

3.ワーク

重点プロジェクト(総合戦略):人口減少対策に分野横断で連携して取り組む施策パッケージ			
Aテーマ ～住みたい・住み続けたいまちに～	「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト		
	やりたいことが実現できるまちづくり支援 地域のひとと移住者が住居に交流できる 仕組みづくり 住み続けるための雇用拡大支援		
Bテーマ ～新たなチャレンジから 宝崎らしさを生み出す～	「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト		
	空き家を活用した 地域くまの農産物 産地農地でイベント・販売 SNSを用いたアピール・周知		
Cテーマ ～安心して暮らし続けるために～	「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト		
	公民館を創造用 数値と価値の交換 特長を人が集う コミュニケーションの場		
Dテーマ ～元気に暮らし続けるために～	心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト		
	ウェルネスポイントの創設 減収対策 市民農園・耕作放棄地活用		

【プロジェクトテーマ】

- A:「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト
- B:「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト
- C:「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト
- D:心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト

- ワールドカフェ方式にて他のテーブルを巡り、アイデアを出し合いながらどんな取組をするか意見交換を行った。



- 最初のテーブルに戻り、他チームからの意見を踏まえ、チームの意見を取りまとめた。



- 班ごとに話し合い、まとめた内容について発表を行った。



- 総合計画審議会 林会長より全体の講評をいただいた。



2 市民ワークショップの結果

A 班:「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト

	何を	どこで	いつ
	若者 子育て世代 出会いつながらツアー 体験ツアー	蜷雪寮 ニコリ 公民館 富士山と観音 景色の良い場所 地域のニーズがある場所	年2～3回イベント(メイン)
どうやるの?	地域の取組	誰が 連携・協力(コア・サポート)の輪広げ図 	
	民間の取組		
	行政の支援		
	取組にあたっての課題・壁		

A 班:「住みたい」を叶える移住実現プロジェクト

A 班では、「住みたい」を叶える移住実現プロジェクトについて、まず何を行うか、また、どのような人をターゲットとするかを検討しました。

「若い人に来てもらいたい」という意見から、特に子育て世帯を想定し、イベントやツアーのような取組を実施してはどうかというところから議論を広げていきました。

韮崎市では、これまでもさまざまなツアーや農作業の体験イベントなどが行われていますが、単発の体験で終わるのではなく、その後の移住や地域との関わりにつながるような取組にできるとよいのではないか、という意見が出ました。

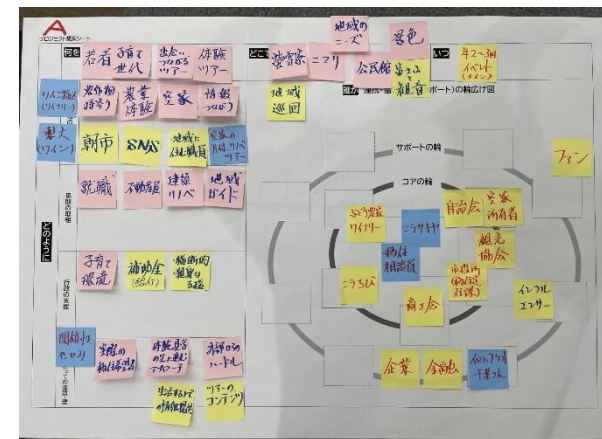
例えば、農作業を体験した後に、収穫した農産物をそのまま朝市で販売してみるなどが考えられます。こうした取組を韮崎市内のさまざまな地域で行うことで、地域内の循環にもつながるのではないかという話になりました。

また、蕪崎市にはワインに関する特色があるため、「ワイナリーを開きたい」と考えている人などのニーズにも合うのではないかという意見がありました。そうした蕪崎ならではの環境をきっかけに、実際に「蕪崎に住みたい」と思う人が来てくれるとよいのではないかと考えました。

空き家については、地域の人が情報を持っていたとしても、知らない人には貸したくないという地域の事情もあります。そのため、単に空き家情報を提供するだけでなく、自治会をはじめとする地域の人たちが関わることで、空き家の活用につながる動きが生まれるのではないかなという意見も出ました。

今回、「コアの輪」として不動産事業者や移住相談員などを挙げましたが、実施する取組によって、中心となる人や団体は変わってくると思います。不動産事業者、移住相談員、行政、商工会、観光協会、空き家所有者などが中心となり、それぞれの取組に応じて連携していくイメージです。

また、企業からのサポートも必要だと考えました。さらに、蕪崎市の情報をきちんと発信していくという意味では、インフルエンサーなどを活用した情報発信も必要ではないかという意見が出ました。



B 班:「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト

	何を	どこで	いつ
	Nirasaki Brand 発信 →採れたて野菜・米 「野菜」を通じた地域コミュニティ 小さなワイナリー増やす (ワイナリースタンプラリー)	-	-
まちづくり	地域の取組 やりたいことの情報・魅力等の情報発信 市の居住環境・空き家の発信 (野菜よりも果樹を推すべき!との意見もあり)	誰が 連携・協力(コア・サポート)の輪広げ図 多言語で SNS 発信 空き家活用する人:提供する人を調べる 居住環境の情報を事前に提供 場(時間・企画)を横断的に提供 補助事業等紹介 市民に情報を出してもらう 「市民のやりたいこと」×「空き家」マッチング 育てた野菜で「朝市」イベント フォトスポットを SNS で応募 空き家情報を SNS に流す 遊休農地でイベントや販売を実施し、そのことを周知する SNS 利用する 地域ぐるみで農地を守る空き家利用しながら農業体験を行う サポート 企業による市民のフォローアップ 東京エレクトロン 民間 地元 支援してくれる企業の活用モノづくりや商品を活用 コアの輪	
	民間の取組 資金のみならずシーズを提供 既存の「ワインフェス」 ワインを作りたい人 (ここのフォローアップ足りない?)		
	行政の支援 空き家を活用・提供する人の収集 マッチングの場・企画を横断的に提供 空き家活用の補助事業の紹介		
	取組にあたっての課題・壁 素晴らしい景色が伝わっていない 「韭崎」が SNS 検索に引っかからない 利用後のゴミ問題・処理 交通渋滞緩和		

※緑字は地域の取組、赤字は民間の取組、青字は行政の支援を表す

B 班:「Made in Nirasaki」魅力創出プロジェクト

B 班では、「新たなチャレンジから韮崎らしさを生み出す」というテーマについて検討しました。「新たなチャレンジとは何か」「韮崎らしさとは何か」というところから議論を始めています。

その中で、「市民がやりたいことは何か」という視点から、空き家を活用した地域ぐるみの農業などについて話し合いました。例えば、市民のやりたいことと空き家をマッチングすることや、育てた野菜を朝市で販売するイベントなどが考えられます。

また、まず人に韮崎へ来てもらい、「韮崎にはどのような魅力があるのか」を知ってもらうことも重要です。そのため、市民から地域の魅力に関する情報を出してもらい、私たち自身もそこから「韮崎にはこんな場所があるんだ」と改めて気づくことができるよう、フォトスポットを SNS で募集するというアイデアも出ました。

空き家についても、SNS を活用して情報を発信することが考えられます。また、遊休農地を活用してイベントや野菜の販売を行い、その取組についても SNS で広く発信していくことが考えられます。

農地については、個人だけで守っていくのではなく、地域ぐるみで守っていくことも重要です。空いている土地を活用して農業体験を行い、そこで収穫したものを朝市で販売する。そうすることで、市民だけでなく、市外からもさまざまな人が訪れ、韮崎を知ってもらうきっかけになるのではないかと考えました。

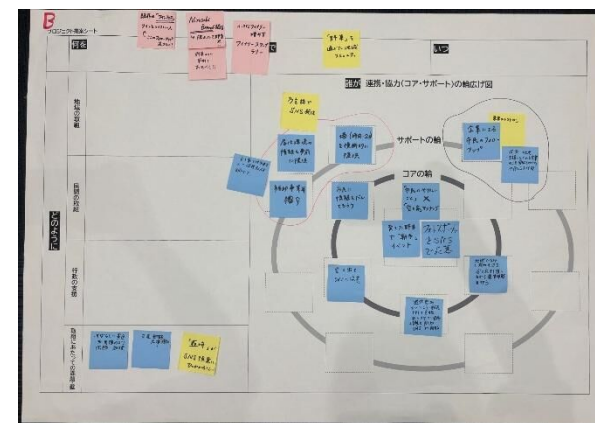
こうした取組を進めるためには、企業からのサポートも必要です。資金面の支援だけではなく、企業が得意とする分野や商品などを取組の中で活用することも考えられます。企業にとっても PR につながるような形にすることで、地域と企業の双方にメリットのある関係がつけられるのではないかと思います。

具体的には、東京エレクトロンのような市内の大きな企業との連携も考えられます。どのような形で協力をお願いするかは難しいところですが、せっかく市内に大きな企業があるので、こうした企業にも協力してもらえるとよいと思います。

行政については、建築・建設、農業、市民生活など、さまざまな部署が関係してきます。そのため、縦割りで対応するのではなく、ここで取り組もうとしていることに対して、分野横断的に支援していただきたいという意見が出ました。

また、「補助事業」と書いていますが、必ずしも行政に直接お金を出してほしいということではありません。「こういう補助事業がある」と紹介していただいたり、申請方法や締切などについて丁寧に教えていただいたりすることも、大切な支援だと考えています。

情報発信についても、SNS を活用するとともに、日本語だけではなく多言語でも発信することで、こうした活動をさらに広げていけるとよいと思います。



C 班:「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト

	何を	どこで	いつ
	公民館を夢の実現場所に 公民館は何かをチャレンジするには 程よい大きさ	地域の公民館 自治体を持っている公民館 公民館ごとに小規模に実施	-
どんなこと	地域の取組 民間の取組 行政の支援 取組にあたっての課題・壁	誰が 連携・協力(コア・サポート)の輪広げ図	

C 班:「顔が見える」地域コミュニティ形成プロジェクト

C 班では、「顔が見える地域コミュニティ形成プロジェクト」について、これまで皆さんからいただいたさまざまなアイデアを踏まえながら検討しました。

前は、公民館の活用や「野菜と感謝の交換」、神社を人が集まる場所として活用することなど、さまざまな意見が出ていました。今回は、その中でも特に「地域コミュニティの場」という視点から、公民館を拠点とした地域コミュニティづくりについて話し合いました。

例えば、公民館でマルシェなどを開催することで、地域の皆さんが気軽に集まれる場所になります。そこでお互いの顔が見えたり、情報交換をしたり、近況を共有したりすることができます。

そうした日頃からの関係があれば、災害など何かあったときにも、「まずは声をかけてみよう」と思える関係につながります。日常的な交流が、防災の面でも地域の支え合いにつながっていくとよいのではないかという話をしました。

また、他の班の議論を聞いていても、「公民館」という言葉が出ていました。地域コミュニティの場所として、公民館はお互いの顔が見える重要な場所になるのではないかと思います。

その上で、公民館をどのように面白い場所にしていけるかを考えました。地域の皆さんが「こんなことをやってみたい」と思ったことを実現できる、大人にとっての「夢の実現の場所」のようなものになるとよいのではないかという意見が出ました。そのためには、地域の中にあるアイデアを持った人や、「何かをやりたい」と考えている人を、地域人材としていかに発掘するかが重要です。

地域の中心には区長さんや公民館長さんがいらっしゃいますが、区長さんや公民館長さん自身に、すべての企画を考えてもらう必要はないと思います。そうした方々には地域との窓口になっていただき、「やりたいことがある人」「夢を実現したい人」を見つけ、活動につなげていくことが重要です。行政にも、地域の中からそうした人材やアイデアを発掘し、情報を収集したり、声を拾い上げたりしながら、人と人をつないでいただくとよいと思います。

また、市民から「こんなことをやりたい」という声が出てきたときには、行政職員の皆さんにも「それはいいね」と前向きに受け止めてもらい、背中を押したり、実現に向けて伴走したりするような支援があると、取組を形にしやすいのではないかという話も出ました。

行政による支援としては、予算面でのサポートや、どのような補助金・助成金が活用できるのかといった情報提供もあるとよいと思います。

例えば、「こういう助成金がある」「こういうサポートが受けられる」といった情報を自分から探しに行ける人はよいのですが、情報を探すが難しい人や、そもそもそうした制度があることを知らない人もいます。

そのため、行政から公民館などを活用して、地域の身近な場所で情報を発信していただくことも必要ではないかという話が出ました。

イベントや地域活動についても、単に「情報を発信した」というだけではなく、どのように知ってもらえるかが重要です。情報を自分から取りに行ける人だけではなく、本当に情報が必要な人に、必要な情報をどのように届けるかという視点で、周知方法を工夫していく必要があると思います。

以上のような形で、地域コミュニティについて意見をまとめました。



D 班:心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト

		何を 遊び・食・自然・デジタルの掛け算 なんでも楽しく参加 楽しい 韮崎の特徴を活かす	どこで ニコリ ミアキスなどの場所を使う 地域の池・山 自然環境	いつ 通年月一程度 いつでも行けば楽しめる いつでも手に入る
ウェルネス	地域の取組	祭り祭事・神事 ミアキス ヤマケン 盆 ダンスを行政で発信(地元の踊り) ボードゲーム カードゲーム(戦略性) 麻雀(アナログ、オンライン両面でできるのが良い)	誰が 連携・協力(コア・サポート)の輪広げ図 	
	民間の取組	地域食堂 e-スポーツ団体企業など 子どもの居場所⇄お年寄りの居場所 子ども食堂→地域食堂		
	行政の支援	場所の提供 (ニコリ・公民館) お金(初期投資)		
	取組にあたっての課題・壁	世代間がバラバラにならないようにする 若者の参加(次世代) 単発実施で終わってしまう→いろいろな地区の公民館をまわるなど やりたい人が参加しやすい環境作り 周知・発信方法(発信するだけでなく必要な人に届く) インフルエンサーからの発信		

D 班:心身いきいき「ウェルネスシティ」プロジェクト

一番のポイントとして、ウェルネスには、体の健康と心の健康の両方があると考えました。

ただ、我々修行僧ではないので、健康のためだからといって、苦しいことを我慢して続けるのではなく、やはり楽しくなければ続かないと思います。そのため、体を鍛えることや健康を維持することについても楽しみながら取り組み、心の面でも楽しさを感じられるものにしていこう、ということを経験的なコンセプトとして議論しました。

具体的には、ゲームやボードゲーム、e スポーツ、祭りなど、さまざまな活動が挙げられました。

また、こうした活動の中に、自分自身のレベルアップや他の人との競争、大会などの要素があることで、世代間の交流にもつながります。また、より上を目指して頑張る楽しさや、自分自身の成長を実感できるのではないかと話しました。

こうした取組を進めるに当たっては、新しいものをすべて一からつくるのではなく、地域ですで行われている取組と連携することが大切です。それによって、葦崎らしい特徴のある取組にもつながると思います。

また、民間の事業者ですでにさまざまな活動を行っているところもあるので、そうした事業者との連携も必要です。

行政からの支援としては、まず活動する場所の提供が考えられます。また、取組を始める際の初期投資についても、行政から一定の支援があるとうい話をしました。

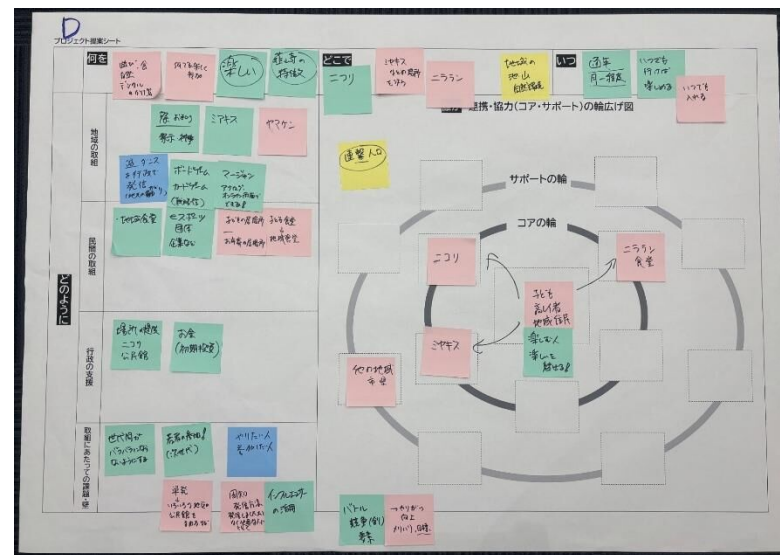
取組を進める上での課題としては、世代ごとに活動が分かれてしまわないよう、きちんと世代間交流ができるようにすることが重要です。

もう一つは情報発信です。葦崎の取組や特徴を発信する力がまだ十分ではないという意見がありました。他の班でも出ていたインフルエンサーなどとも連携しながら、葦崎の特徴をきちんと発信していくことが大切だと思います。

また、「コアの輪」の中心にいるのは、基本的には、その活動に参加する人たちだと考えました。

ニコリやにららん食堂など、すでにある場所や取組を活用しながら、最初は参加者だった人が、次第に活動を支えるメンバーになっていくような仕掛けをつくることが重要です。

そうすることで、一時的なイベントで終わるのではなく、持続可能な取組にしていけるのではないかと話しました。



3 参加者の感想

感想	言いそびれたこと・今後の要望など
- この取組みが前進の第一歩となり、荳崎市の発展に繋がればよいと思いました。 - 皆さんの荳崎のためにいろいろな知恵を出し合っている姿に感動しました。 - 本日が初めての参加であったため、要領がよく読み込めなかったのですが、楽しく参加できたのは何よりでした。 - 総合戦略の中身が見えてきた気がする。(思いは皆、同じか?)若い方々が自分の意見をしっかり言えることに感心した。 - 荳崎市の将来についてさまざまな立場の方々と意見を交わすことができ、大変有意義な機会となりました。今回出された意見が今後の総合計画に反映され、より魅力あるまちづくりにつながることを期待しています。 - どのグループも、新住民(移住者)を巻きこむ、希望者を呼び込む、顔の見える関係性を形成する。自然、農業、体験など荳崎らしさを体験、経験してもらうなど、同じ方向の話し合いになったように感じました。中心になって活動する主体をどう開拓?発見?育てていくことが重要と思いました。 - 今回初めて参加しましたが、さまざまな意見やアイデアを聞くことができ、とても貴重な時間となった。 - 楽しい、わくわくを生み出すことを考える場所に定期的に参加する。 - 市民の方からの意見等色々と聞くことができ勉強になりました。改めてこういった機会は大切だと思いました。 - 具体的な施策まで掘り下げることは難しかった。私自身もですが、市外在住の方が多く、意外と市内の方が少なくて驚きました。(良くも悪くも荳崎の特徴?) - 議論するプロジェクトについて、具体的な方向性を示してくれた分、話し合いが進めやすかった。 1, 2, 3と参加して、荳崎のビジョンを順序立てて皆様と考えることができ本当に良かったです。ありがとうございました! - 一市民として「わくわく」「楽しそう」という気持ちが芽生えるような市になったらいいなと思いました。そのために一行政職員として市民の皆様の声を聴いて活動していきたいなと思いました。 - ワークを通じて、荳崎市のコンパクトさが地域コミュニティのフットワークにつながるのではないかと、改めて実感しました。どのグループにも共通するワードや視点がたくさんあったことが、とても興味深いと思いました。実現したらいいなと思うことがいっぱい面白かったです。	- まず、荳崎市の職員は市内に居住することを推奨してほしい。人口減少がうたわれてから我が市を我が身のこととして考えていく必要があるかと思う。 - 市民の主体性をどう育てる、主体とどう連携するかについて行政としての仕組み、姿勢を明確に打ち出すことが大切だと思います。 - 次の機会があれば知人を誘ってみたいです。 - お菓子を手に付けやすい雰囲気 - すてきな街づくりに貢献できるよう、私も引き続き努めさせていただきたいと思います!いつでも呼んでください! - C 班では「公民館を夢の実現場所に」と出しましたが、ひいては「荳崎市が夢の実現場所に」になればいいと思います! - 市民への周知、掲載して終わり、発行してよしとせず、情報を取りに行けない人、情報の必要な人、ほしい人にちゃんと届く工夫をお願いしたい。

4

会の様子



会場全体の様子



各班のワークの様子



各班の発表の様子

